

行政事業レビューシート (環境省)						
予算事業名	自然環境保全地域等保全対策費		事業開始年度	平成18年度		作成責任者
担当部局庁	自然環境局		担当課室	自然環境計画課 自然環境整備担当参事官室		課長 星野一昭
会計区分	一般会計		上位政策	生物多様性の保全と自然との共生の推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	自然環境保全法第16条第1項、第24条第1項		関係する計画、通知等	各自然環境保全地域等保全計画書		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国の生物多様性の保全上極めて重要な役割を担う自然環境保全法に基づく原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域について、同法に基づく保全事業を実施することにより、当該地域の自然環境の適正な保全・管理を図る。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域の適正な保全・管理に必要な標識等(標識、標柱、境界杭)の整備等を行う。					
実施状況	平成21年度は、以下の事業を実施した。 なお、原生自然環境保全地域(5地域)及び自然環境保全地域(10地域)においては、これらの地域の指定以降、継続的に保全・管理に必要な標識等の整備・補修を行っている。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	4	3	3	2	
	執行額	3	2	2		
	執行率	75.0	66.7	66.7		
	総事業費(執行ベース)	3	2	2		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	事業については関係者と綿密な連絡を取り、随時必要な調整を行った上で、適正な執行がなされるよう確認に努めている。また、工事の施工状況等については、現地を担当する地方環境事務所等の担当職員が必要な確認を行っている。				
	見直しの余地	原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域は、いわゆる奥山に位置し、自然状況(風雨、豪雪等)が非常に厳しいため、毎年、過去に整備した標識等に破損等が発生している状況であり、定期的・継続的な整備・補修が必要である。引き続き、競争性のある契約を実施する。予算額については過去の執行状況等を踏まえ適宜見直しを行っており、平成22年度予算についても精査のうえで事業に必要な予算を計上している。				
予算・監視の・所見率						
補記	○予算繰越(当該年度の前年度からの繰越額)					
		19年度	20年度	21年度		
		—	0	0		

環境省
2百万円

〔 原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域の適正な保
全・管理に必要な標識等(標識、標柱、境界杭)の整備等 〕

■ 標識整備等

【一般競争】

A. (株)川村建設
1.7百万円

〔 十勝川源流部原生自然環境
保全地域における標識建替工
事 〕

【少額随意契】

東北森林管理局
0.02百万円

〔 土地借料 〕

【一般競争】

(有)旭工業
0.2百万円

〔 遠音別岳原生自然環境保全地域
における看板製作 〕

【少額随意契】

九州森林管理局
0.03百万円

〔 土地借料 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごと
 に最大の金額が支出さ
 れている者について記
 載する。使途と費目の
 双方で実情が分かるよ
 うに記載)

A. (株)川村建設			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	自然環境保全地域等保全対策調査費	2			
計		2	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0